

## ■市民協働研修(若手職員)テスト及びアンケート

《調査概要》	回答期間: 令和4年2月21日～令和4年3月11日 回答方法: e-KANAGAWAにて回答 回答対象: 市民協働研修(若手職員)の受講者 対象者数: 42人 回答者数: 32人 回答率: 約76%	n = 32
※テスト問4、5、6、アンケート問5は自由記述のみ。		

テスト【問1】 平成31年1月に制定した「つながる鎌倉条例」に規定している市の責務について、あてはまらないものを選択してください

1.「市民活動の推進に必要な施策の策定」とは、できる限り市民活動が活発に行われるために市民活動の推進に必要な施策を策定し、環境の整備を行うことである	1	3%
2.「できる限り市民活動が活発に行われるための環境の整備をしなければならない」とは、無制限に支援を行うことである	30	94%
3.「市職員に対する市民活動及び協働に関する啓発等」とは、職員一人一人が市民活動及び協働の重要性を理解するための研修等を実施することである	1	3%

正解 2  
正答率 94%

テスト【問2】 中間支援組織の説明について、あてはまらないものを選択してください。

1.市と市民等及び市民活動を行うもの間に立ち、市民活動が円滑かつ活性化することができるように支援する組織である	1	3%
2.鎌倉市市民活動センターは業務委託により運営されている施設である	31	97%
3.鎌倉市市民活動センターの役割は、新たな取り組みの担い手のサポートや環境整備、新たなつながりを創出するための各種事業の支援等である	0	0%

正解 2  
正答率 97%

テスト【問3】 市民活動団体へのアンケートにおいて、協働を進めるうえでの市の課題として挙げられているものを選択してください(複数選択)。

1.協働に消極的である	24	75%
2.情報提供が不足している	25	78%
3.事業を担う事務力不足	12	38%
4.市の中で連携とれていない	23	72%
5.市民活動団体に関する理解不足	24	75%

正解(完答) 1,2,4,5  
正答率(完答) 50%

テスト【問4】 協働することでより効果的な公共サービスを提供できる事業があるか、自分の課に置きかえて考えてみましょう。(自由記述)

- 1 市で管理できていない土地(風致地区等制限がない土地)がある。
- 2 体調不良児のお迎えがなかなか来ることができない
- 3 市内の空き家の状況把握、管理が不十分な現状がある。
- 4 保育園で行っている遊びや子どもへの関わり方を、保育園等に通っていない子育てを行う家庭へ知らせたり、家庭での相
- 5 中小企業のDXの推進。
- 6 市民課では戸籍の証明書を取り扱っていますが、相続の際に被相続人の一生分の戸籍を求められる方が多くいらっしゃいます。しかし読み方や必要な書類がどれにあたるのかお困りの方も多いです。市民課で戸籍証明書を一緒に読み解くことを行っていますが、人力的・時間的に限界があります。
- 7 維持修繕が必要な風致地区の標柱の確認。  
行きづらい場所に立っているものもあり、確認ができていない。
- 8 地域に根差した子育て支援の実施。コロナ禍のため保育園で本来行われるべき交流事業や施設開放事業が十分に実施できていない。
- 9 統計担当では、地域に詳しい方の統計調査員(特に国勢調査調査員)のなりて不足が課題となっている。
- 10 市内の道路管理(樹木の越境、道路の損傷等)がきれいな
- 11 通学路危険箇所の確認が年一回しかできていない  
(別担当の業務のため認識が違っている可能性があります。)
- 12 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、子どもへの環境教育の場が少なくなっている
- 13 日本語を話すことができない外国人が来庁された際に、対応できる職員が少ない。
- 14 外国籍市民の支援(日本語教育、住居、就学、就労等の総合的な支援、災害時対応等)
- 15 コロナ禍によって、孤立してしまった子育て中の親がいる。
- 16 市内の桜の木が病気になっており、きれいに咲いていない。
- 17 雇用場数が少なく若者が転出する
- 18 鎌倉市内のほとんどの公園では毎年利用頻度等を考慮し、園内の草刈りの順番を決めて行っているが作業が間に合わず繁茂してしまうような場所がある。また、管理する公共施設が広大なため市や指定管理者が見守り切れない場所や時間帯が多い。
- 19 鎌倉市駅周辺にたばこ吸う場所が無いので路地裏で吸っている人がいる。
- 20 相続登記がされておらず、所有者や管理者が不明な土地が増えている。それにより植木などが適切に管理されず放置状態になっている。
- 21 市内にある空き家について、所在や実際に居住しているか等を含め正確な情報を市が把握できていない。
- 22 下水道の事業、存在自体をあまり理解してくれていない
- 23 ・歴史的建築物の保存、活用
- 24 ・高齢かつ独居の受給者・精神疾患のある受給者・認知症の受給者等、居宅生活と入院入所の境界線にいる受給者に対する見守り等ができず、トラブルへと発展しやすい。
- 25 民地内樹木によって、道路幅員が狭いので対応して欲しいとの市民要望が多々ある。特に夏の時期はとても多い。
- 26 高齢者の安否確認ができない時がある。  
現在でも民生委員などの市民団体と共同しているが、分母が多いため手が回らない時がある。
- 27 観光都市鎌倉という視点と、障害福祉の視点をふまえると、市内のバリアフリー化の推進が強く求められると考えられる。段差の解消や道路幅の拡幅など、物理的障壁の除去のみならず、制度や社会的・心理的障壁も含めた広義の「バリアフリー化」をすすめていかなくてはならない。
- 28 鎌倉市に転入してきた人にお渡ししているパンフレット等は日本語で記載されたものしかないため、外国人の方には鎌倉市の情報を伝えきれない。
- 29 深沢地区のまちづくりについて、市民に広く周知するには、市からの説明会や広報だけでは情報発信には限界があるのではないかと感じる。
- 30 市内全部の道路をパトロールすることは難しく、安全確保が出来ない。
- 31 放課後かまくらっ子の高学年の参画率が上がらない。
- 32 自治会町内会のエリア図

テスト【問5】 上記で記載した課題を解決するためにどのような協働事業が考えられますか。役割分担も考えてみましょう。(自由記述)

1	市が所有しているが、管理できていない土地を使った市民の居場所をつくる事業 〈市〉 市民への周知 安全の確保
1	〈団体〉 土地の整地 居場所づくりのための人集め、周知 継続的なメンテナンス
2	〈市〉 ・園の保護者、近隣の病院にサービスの周知を行う ・近隣病院に園で流行している感染症や、多く見られる症状を周知する ・団体向けに保育に関する講座を行う
2	〈団体〉 ・お迎えの代行、保護者が帰宅するまでの保育 ・必要に応じて、通院の付き添い→通院後の保護者、園への連絡
3	空き家の状況把握と利活用に向けたコーディネート事業 〈市〉 ・団体から受けた情報を元に、空き家の所有者等を調べる ・所有者に対し管理指導を行ったり、利活用や相続の相談に乗ってくれる団体を紹介する
3	〈団体〉 ・定期的な巡回や地域住民からの情報提供により把握した空き家の情報を市に連絡する ・空き家の所有者、地域住民、市と連携し、空き家の利活用の利活用を進める ・空き家の所有者からの利活用や相続についての相談に乗る
4	市内の子育て家庭に定期的な訪問や電話等をして状況の把握や相談等を受ける保育に関して専門的な知識を有する事業 〈市〉 機会や場所の確保 各家庭への周知
4	保育園の職員の人材確保 〈団体〉 見回り訪問の実施 緊急を要する家庭がある場合は市にも連絡
	市、団体に細かい情報共有を行うことが必要
5	〈市〉 ・DX推進のための課題を企業へのヒアリング。 ・補助制度の制定、周知。 ・他自治体(県)等との共同事業実施。
5	〈団体〉 ・ワークショップの開催。 ・専門家の招へい。 ・企業別の支援。
6	セミナー等の実施 〈市〉 セミナーテーマのニーズの把握
6	〈団体〉行政書士や司法書士の資格を持つ方をイメージしています ニーズに合わせたセミナーの実施
7	〈団体〉 標柱の現状確認 修繕が必要なものがあれば、市に連絡
7	〈市〉 標柱の位置をピックアップ 修繕の発注依頼

	<p>子どもに関わる活動をしている団体と協働し、自宅で子育てをしている保護者と子どもたちが楽しめる活動や子育て相談を定期的を実施する事業。</p> <p>&lt;市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所の確保(公民館や行政センターなど十分な感染症対策ができる広いスペースを確保)</li> <li>・広報活動</li> </ul> <p>8・子育てセミナーの企画・実施</p> <p>&lt;団体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに向けたアクティビティの企画・実施</li> <li>・子育てセミナーの企画・実施</li> </ul>
9	<p>自治町内会へのサポートの一環として調査員をやっていただき報酬を支払う。</p>
10	<p>団体 危険箇所、よく通報がある箇所をピックアップし、定期ルートでの巡回してもらう</p> <p>市 状況の連絡を受け、場合によっては対応を行う</p>
11	<p>&lt;市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所を判断するためのハンドブックの作成や、過去の事例の共有</li> <li>・団体から連絡を受けた通学路危険箇所の確認・対応</li> </ul> <p>&lt;団体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回の実施</li> <li>・危険箇所を発見したら市に連絡</li> <li>・危険箇所を判断するためのハンドブックの作成あたり、意見の提供</li> </ul>
12	<p>小中学生や同伴の保護者に向けて、環境教育講座を行う</p> <p>&lt;市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座を行う場所の確保や、参加者の募集を行う</li> <li>・市で行っている環境に関する取組を紹介する</li> </ul> <p>&lt;団体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する講演を行う</li> <li>・家庭でできる省エネに関する取組を紹介する</li> </ul>
13	<p>鎌倉市に転入する外国人のため、市役所での手続き一覧表を多言語化し、ホームページ等で公開する。</p> <p>&lt;市&gt;</p> <p>外国人の住所異動に伴う手続きをピックアップする</p> <p>&lt;団体&gt;</p> <p>多言語化の実施</p>
14	<p>&lt;市&gt;</p> <p>負担金等による金銭的サポート 行政機関等との連携体制の構築</p> <p>&lt;団体&gt;</p> <p>外国籍市民への支援体制の構築</p>
15	<p>オンラインや施設等で子育て相談会や幼児親子向けや学童向けの各種イベントを行う事業。</p> <p>&lt;市&gt;</p> <p>場所をピックアップする。 イベントを開催することを広報等で周知する。</p> <p>&lt;団体&gt;</p> <p>イベントの実施 イベントを開催するための準備</p>
16	<p>里山保全活動や草刈作業、観光案内などを行う市民活動団体と桜並木を巡回し、整備する事業</p> <p>&lt;市&gt;</p> <p>市内の桜並木の場所をピックアップする 団体からの連絡を受けた場所を樹木医等に連絡する</p> <p>&lt;団体&gt;</p> <p>市内巡回、整備の実施 病気の木を発見したら、市に連絡</p>

17	<p>若者向けの雇用機会の創出及び確保のための情報提供事業          &lt;市&gt;          市内の採用募集企業や求職者に取り組み内容の周知          募集状況の管理          &lt;団体&gt;          SNS等の情報掲示サービスの管理          求職者のニーズの調査 など</p>
18	<p>公園内の清掃・草刈りなどを行う市民活動団体と定期的な草刈りや清掃を行うことで公園の見守り役を担う事業          &lt;市&gt;          各市民活動団体の活動拠点は市が決める          市民団体の活動では出来ないことへの対応          市民団体の活動範囲を決め、公園内でのトラブル防止に努める          必要に応じた実際の公園内での立ち合いで公園に関する声を聞く</p>
19	<p>路上喫煙防止事業          &lt;市&gt;          喫煙所の土地確保          &lt;団体&gt;          巡回の実施</p>
20	<p>草刈作業などを行う市民活動団体と草刈や植木の剪定等を行い、近隣住民の安全確保を図る事業          &lt;市&gt;          所有者・管理者が不明な土地・建物の把握          巡回ルート of 剪定          相続登記の周知          &lt;団体&gt;          所有者・管理者が不明な土地・建物の巡回          草刈や植木の剪定の実施          実施内容の報告</p>
21	<p>&lt;市&gt;          エリアごとに自治会等へ連絡をとり、巡回する場所を指示          団体から連絡を受けた家屋等について、所有者を調べ適切な管理を依頼する          &lt;団体&gt;          決められたエリアの中で巡回を行う          空き家と思われる家屋等について、所有者を把握している場合、管理状況の聴取を行う          同時に、家屋等の状況について市へ連絡する</p>
22	<p>下水道の事業、存在自体をあまり理解してくれていないので、普及活動などを実施。</p>
23	<p>市          ・建築物を所有する          ・団体からの相談を受ける          団体          ・建築物を用いたイベントの開催          ・建築物がきれいな状態で維持するための清掃等の活動          ・建築物の劣化等にいち早く気付く</p>
24	<p>&lt;市&gt;          注意世帯の情報提供          &lt;団体&gt;          巡回・見守り</p>
25	<p>近隣住民が協力して、道路(通学路等)を安全に通行ができるように維持する事業          &lt;市&gt;          高齢で草刈りや枝払いが困難なお宅の把握。          &lt;団体&gt;          近隣住民が協力して周辺のコミュニケーションを積極的にとる。          高齢の方の家には近隣住民が協力して、草刈り等を行う。</p>

26	<p>&lt;市&gt; 要配慮者、要介護者のリストを提供する。</p> <p>&lt;団体&gt; 巡回の実施</p>
27	<p>平成30年度に実施した「車いす観光バリアフリーマップ作成事業」の取り組みを活かしくことも念頭に、まずは「物理的障壁」の除去に取り組んでいる場所をリスト化していく。加えて、合理的配慮の提供など、「社会的・心理的障壁」の除去に取り組んでいる事業者や場所等についても情報を収集し、わかりやすいマップのような成果物として作成、配布を行う。バリアフリー化がされているところが分かると、一方でバリアフリー化されていないところも可視化されるため、そういったところへ取組の推進を働きかけることができる。</p> <p>&lt;団体&gt; バリアフリー情報の収集 →関係機関や当事者等への聞き取りも含め行う。 成果物(マップ等)の作成 →多様な情報取得手段により、情報を取得できるような工夫を凝らす(点字版・音声版の作成、多言語対応など)。</p> <p>&lt;市&gt; 関係機関の紹介や、場の設定、聞き取りの場への同席 成果物の周知 収集した情報に基づく、バリアフリー化施策の推進</p>
28	<p>鎌倉市の自治・町内会の運営に関する市民活動団体や、観光地としての鎌倉の魅力を伝える市民活動団体等と外国人の方に鎌倉の生活について伝える英語の冊子を作成する事業</p> <p>&lt;市&gt; 転入に伴って発生する手続きのピックアップ 取材先への協力依頼 冊子の配付</p> <p>&lt;団体&gt; 町内会ごとの決まり事などの調査 これまでのノウハウを生かした外国人の方におすすめの場所のピックアップ</p>
29	<p>まちづくりに関する広報活動</p> <p>(市) 定期的な説明会の実施や広報(チラシやHP)の更新により、主に反対派への周知活動</p> <p>(団体) 定期的な説明会の実施や広報(チラシやSNS)の更新により、主に無関心層、若手への周知活動</p>
30	<p>市民からの通報窓口を作る</p>
31	<p>中高学年を対象とした異学年交流</p> <p>&lt;市&gt; 高校生・大学生の団体とつながりをもつ モデル施設を決める 成功事例を発表し、他施設へ浸透させる</p> <p>&lt;団体&gt; 放課後かまくらっ子の児童と遊ぶ 放課後かまくらっ子の児童とイベントを企画する 中高学年と触れ合った感想を市にフィードバックする</p>
32	<p>自治会町内会のエリア図の更新と電子化、情報公開区分の聴取等</p> <p>&lt;市&gt; 自治会町内会への事業の周知</p> <p>&lt;団体&gt; 自治会町内会への聞き取り 地図への落とし込み、電子化</p>

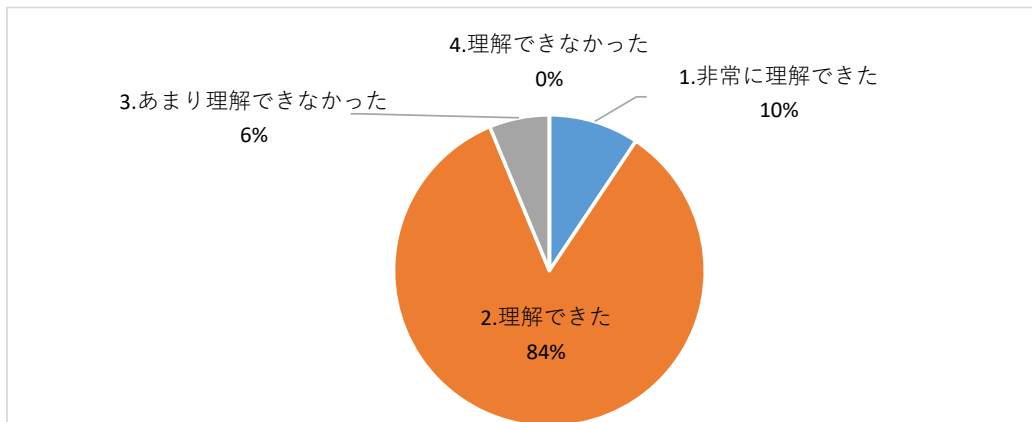
テスト【問6】 協働によりどのような成果・効果が考えられますか(事業の成果ではなく、協働することによるメリットです)。(自由記述)

1	事業を通じて居場所づくりの団体と地域の住民が交流することによる地域活性化。 市の所有財産の有効活用。
2	・体調不良児に早い段階で必要なケアを行うことができる ・早めのお迎えにより園内での感染症の流行を抑えることができる ・保護者の勤務時間を多少確保することができる
3	・より正確に市内の空き家の状況が把握ができる ・空き家が減ることで防犯につながる ・空き家を活用した新たな事業が始められる可能性がある ・事業に携わることで地域住民が自分の地域のことを把握するひとつのきっかけになる
4	・地域全体で子どもを見守るよう、市や市民全体の意識が高まる。 ・子どもの存在に対して興味関心が高まる。
5	市民にとっては、情報の入手先が偏らないことにより、公平性の担保された機会を得る事ができる。市及び団体にとっては、お互いの不得意な分野を補完しあうことで、限られたリソースを効果的に活用できる可能性が高まる。
6	・市の職員も知識を得られる ・市民活動団体に対する信頼が参加者から得られる
7	どのような場所が風致地区なのか実際に見てもらうことで、風致地区の景観をより意識してもらうことができる。
8	・幅広い視点から柔軟な発想をもって課題を解決することで地域住民のより豊かな生活の構築に繋がる。 ・地域の人々が繋がり、交流する場ができる。
9	事業を通じて来訪者や近隣住民と交流することで、地域の担い手としての意識が高まる。 調査員業務には報酬が発生するためお金がもらえる。
10	職員だけでは対応しきれない部分を担ってもらうことで市民サービスの幅が広がり、事業を通じて市民活動団体の第三者的な視野を取り入れることができる。
11	・事業に携わった市民が通学路がどこにあるかを確認することで、不審者がいないか確認することもできる。
12	協働により、より市民に寄り添った内容や専門的な内容を啓発することができる
13	事業に携わった市民が多言語化することで、市民が分かりやすい言葉に変換できるとともに、実際に外国人にも協力を得ることで異文化交流の場を設けることができる。
14	ノウハウを有している団体等と協働することで、より効果的な支援が可能となるほか、地域との連携強化につながる。
15	・孤立してしまつて不安等を一人で抱え込んでしまつて、悩んでいた人が減る。 ・悩み等を情報交換することで、行政サービスにつなげることで支援ができる。
16	・美しい桜並木を取り戻し、景観維持をすることができる。 ・市民が事業に携わることで、市内の自然に対する意識が高まる。 ・市内の新しい魅力を発見することができる。
17	・事業を通じて市民活動団体と市民等が交流することで、地域の担い手としての意識の向上につながり、地域活性化が促される。また、交流を通して地域愛が醸成される。
18	一般的に公園は不特定多数の多様な人が利用する場であり、それゆえ多くのトラブルや課題が発生する。地域の方々の協働があることで市や指定管理者が目の届かないところまで見守ることができ、誰もが安心安全に憩うことができる公園とすることができる。
19	景観維持
20	・協働相手の市民活動団体会員を震源地として市民全体の不動産相続(登記を含む)の機運を醸成できる ・安全確保ができただけでなく、市民活動団体会員自身の所有する土地・家屋の管理意識を高めることができる
21	・市で把握しきれない家屋等の情報について、より細かく把握できる。 ・市民間で連携をとる機会が多くなり、防犯に対する意識が向上する。
22	下水道の事業、存在自体をあまり理解してくれていないので、普及活動などを実施することで、よりスムーズに市政運営が行える。
23	・歴史的な建築物への関心が高まる ・建築物を大切に使うという気持ちが生まれる ・鎌倉市の魅力の創出につながる
24	受給者が安心して生活できる
25	・道路を安全に通行できるようになる。 ・死角が減り、事故等の発生件数が減少する。 ・近隣住民が協力することにより、防犯面でも安全になる。
26	安全確保ができただけでなく、事業に携わった市民と交流することで地域の活性に繋がる。
27	・行政にはマンパワーや成果物作成のノウハウが無い、団体にはツテや機会が無い、という互いの不足する部分を補い合いながら成果をあげることができる。
28	市民活動団体が事業を通じて住民や観光客と交流することで、地域の担い手としての意識が高まる。
29	市役所が実施している説明会には参加しないようなあまり関心がない方たちも、近い立場である団体が実施することにより、自分達にも関わりがある事業なのだ意識してもらえきっかけとなる。
30	道路の安全確保がしやすくなる。
31	放課後の子どもの第3の居場所を目指しており、それが低学年だけでなく中高学年まで広がることで、ナナメの関係が形成され、地元への愛着がわく
32	地域に根差した活動を行うことで、地域からの信頼を得られる。 活動者はもちろん、その活動を見ていた人が、事業実施の手段の一つとして協働を知ることができる。

アンケート 今回の研修を受けて、協働について理解が深まりましたか。その理由をお書きください。

【問1】

1.非常に理解できた	3	9.4%
2.理解できた	27	84.4%
3.あまり理解できなかった	2	6.3%
4.理解できなかった	0	0.0%



#### 非常に理解できた

- ・協働の仕組みだけではなく、実際の行われてきた事例も知ることでより理解を深めることができた。
- ・協働の手引きがわかりやすかった
- ・制度として理解できた。

#### 理解できた

- ・協働の手引きがわかりやすくまとめられているため。
- ・協働について実際の事業の様子や、関わっている人の声を見ることができた。
- ・協働について基礎的なことを学んだ後、鎌倉市における具体的な事例を見ることで、より理解が深まった。
- ・市が既に行っている事業や活動について知ることができた。
- ・中間支援組織をこの研修で知ったから。
- ・自分の課に置き換えることが難しかったですが、想像することで理解を深められました。
- ・一通り一読しオンラインテストを受講する流れが、業務の合間に行いやすく良かった。
- ・初歩的な用語の解説等から資料で説明されていたのでわかりやすく理解できたから
- ・過去に実施事例が掲載されていたため。
- ・協働事業の実績の紹介がたくさんあり、協働についてのイメージができるようになりました。
- ・テストの受講が必須となるため、資料全体に目を通す必要があったから。
- ・協働のことは、全く知らなかったが、市民活動団体等の力も借りてよりよい公共サービスを提供できていることを学んだため。
- ・協働というものがあることを知ることができました。
- ・テキストの内容は把握しました
- ・50ページほど研修資料を電話や窓口対応などしながら行うのが難しかった。また、黙読が主なので時間がかかった

#### 事例が多かったため

- ・今回の研修によって協働という概念を初めて知り、理解することができた。
- ・マニュアルに定義が丁寧に記載されていたため。ただ、実務で協働に取り組んだことがないため、完全に理解はできていないと思う。
- ・文書を読むことで理解できたが、実際の現場を見学する等の体験ができれば、なお理解が深まったと考える。
- ・丁寧な資料で分かりやすかった。
- ・今回のような条例等は知らなかったので、勉強になった。
- ・(市民団体提案型の協働事業で障害福祉課が関係する事業が令和5年度実施で採択されたため、タイムリーな話題で興味深く、理解が深まった。
- ・協働の具体例が多く挙げられており、協働とは何かを想像することができたため。
- ・これまで協働について詳細に研修を受ける機会が無かったが、今回の研修で基礎から学ぶことができたので、勉強になった。
- ・職員だけでは担いきれない課題を市民にも協力してもらうことでよりよくできると感じた。
- ・教科書のように読みやすかったが、パワーポイント資料で絵で見せる方が理解できたと思う
- ・手引きが分かりやすい。

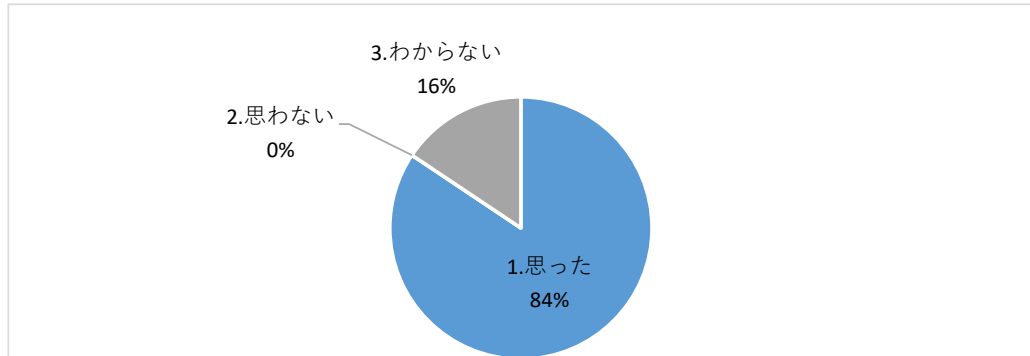
#### あまり理解できなかった

- ・協働事業を行ったことがないため、イメージしづらかった
- ・中間支援組織のコーディネート業務の実績などがあればいいと思った



【問2】 今回の研修を受けて市の事業実施の手段として協働が効果的だと思いましたか。その理由をお書きください。

1.思った	27	84.4%
2.思わない	0	0.0%
3.わからない	5	15.6%



### 思った

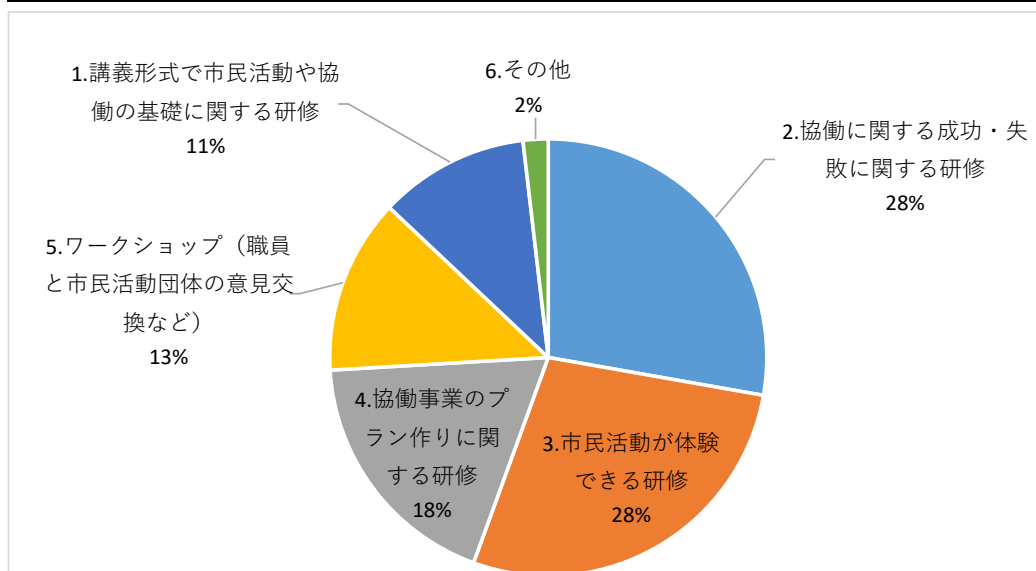
- ・市、団体個人では浮かばないようなアイデアや、実践できないような事業を行うことができる可能性が広がると感じる。
- ・多様化する公共サービスを市だけでやりきることは非常に困難なので、市民団体等と協力して行っていくことが重要だと感じた。
- ・事例を見て実際に効果が出ていることを知ったので。
- ・問題が多様化しているから対応する側も多様である方が良いから。
- ・協働することでお互いの立場や役割を身をもって感じられるのではないのでしょうか。
- ・協働事業を行うことで、地域に愛着を持ってもらえるから
- ・市民活動団体やNPOが持っている新たな視点や技術を取り入れることでより柔軟できめ細かいサービスが提供できると思った。
- ・市役所機能は今後小さくしていく方針だと思うので、その助けになるのではと思った。
- ・行政だけでできることは職員数や予算で限られているので協力できるのは効果的だったから
- ・市民視点の考え、意見を反映することができるため
- ・市内全域と連携がとりやすく、より市民に寄り添った事業が行えるから。
- ・市民活動ならではの自由で柔軟な発想を生かしたきめ細やかな対応により、社会課題解決の担い手として意識が高まる。
- ・市の業務の中でカバーしきれない課題があるため、人手が必要な場合は、協働が効果的と感じたから。
- ・市民の力を借りることも大事だと思いました。
- ・市のサービスでは補えない細かい部分も協働を通じて充分なものになり得るから
- ・実際行政の手が届く範囲は限られていて(技能的な部分を含め)、そこに協働という手段を使うことで痒いところに手が届くサービスが提供できると感じたため
- ・市と市民間でお互いできないことをカバーしあえるため。
- ・一体感が生まれる
- ・市の事業に市民がかかわることで、市民目線での事業の必要性等を確認することができる。
- ・市のみでは行えないきめ細やかなサービスを提供できると感じた
- ・協働することにより、市民活動が活性化するだけでなく、市の業務量も軽減できる感じた。
- ・行政の役割の縮小化が担えるから
- ・行政のみでは行える事業内容に限界があり、行政と市民団体等の互いに不足する部分を互いの充足している部分で補い合い事業を実施していくことは非常に合理的かつ効果的だと感じた。
- ・団体が持つ、市にはないノウハウ等を活かすことができれば、よりよい事業につながると思ったため。
- ・行政だけが進める事業には、物理的にも限界がある部分もあるかと思うので、役割分担して進めていければよいと思った。
- ・協力することでできることも増えるから
- ・市だけでは担えない部分が多いため

### わからない

- ・市と市民団体がお互い充分なメリットを保ちながら、持続可能なものがどれだけあるのかが疑問。
- ・協働が効果的であるとの具体的なイメージがわかかなかったため
- ・効果的な手段と分かった反面、以前市民から鎌倉市は行政がやるべきことをやろうとせず人任せと言われ、市や市民に限らず理解がまだ薄いと思ったため。
- ・生まれ育った土地含め携わったことがないため。
- ・事業内容によって効果的か否かは分かれると思う

【問3】 今後、どのような研修があれば協働の推進に役立つと思いますか。受けてみたい研修内容を選択してください。(複数回答)

2.協働に関する成功・失敗に関する研修	15	46.9%
3.市民活動が体験できる研修	15	46.9%
4.協働事業のプラン作りに関する研修	10	31.3%
5.ワークショップ(職員と市民活動団体の意見交換など)	7	21.9%
1.講義形式で市民活動や協働の基礎に関する研修	6	18.8%
6.その他	1	3.1%



#### その他

・協働の企画から実際の協働までの一連を体験できる研修

【問4】 市民活動や協働の推進にかかる施策についてご提案やご意見等がございましたら、ご記入ください

研修を受けるまで鎌倉市で協働が活発に行われているということを知らなかったもので、受講し、理解を深めることができよかったです。市民の間でも協働が広まっていくように広報活動により力を入れていくと良いと思いました。

協働というと、市民等が活動する対価が「やりがい」に依存しがちなので、そこを市で何か補えたらいいなと思います。